

■ 授業者より

・「生活経験」「既習内容」「意外性」「危機感」を視点として、児童から問いを生み出す単元開発を目指した。本単元では、「生活経験」を視点として学習問題づくり及び学習計画を進めた。

・単元の導入で、不完全な文章で構成されたニュースを提示することで、児童はより適切にスーパーマーケットの工夫を表現しようとした。このような活動を通して、今の自分たちにできそうなことや消費者（家族）を調査対象とする見通しをもった。

・家庭へのアンケートは、ロイロノートのアンケート機能を使って結果を集計した。回答の項目は、児童が家庭から収集した情報を基に、話し合いで決めた。教師が決めるのではなく、その場で考えるということを大事にした。

・「お客さんの願いを叶えているスーパーマーケットの工夫」を写真から読み取る活動で、「すると」という言葉を用いることで、役割や意味を見いだす思考が促され、学習内容の概念的理解につながっていくと考えた。

写真から分かること	社会的事象の意味や役割
冷蔵庫の温度を点検し、温度を表に書いている。	すると、野菜の新鮮さを保つことができる。
納豆コーナーにずらっと納豆が並んでいる。	それは、つまり、たくさんの種類をそろえているということ。

■ 研究協議（主なものを抜粋）

質問・意見等	授業者から
オーソドックスな「家族がどこのお店を利用しているか」という調査活動から単元を始めるのではなく、違う方法をとった意図は何か。	コロナ禍において、買い物に行くよう促すような進め方に抵抗があった。実際の社会とかけ離れた導入にすると、自己と社会のつながりを考えなくなってしまう。
2年生の生活科との関連は考えなかったのか。また、児童の手で問題解決する意味でランキングを練る時間がほしかった。	見学に行くことができない状況にあったため、生活科との関わりは考えなかった。「家庭」からのスタートで十分展開できると判断した。また、ランキングに関しては、練り合いに時間を掛け過ぎることによって、店の工夫が削られてしまうことを危惧した。
単元の導入で、「願い」から入った意図は。また、児童は最後にどう考えるようになっていたのか。	学習指導要領では、「売り上げ」に着目している。家庭からのスタートとすることで、より児童の経験に沿った形で展開できると考えた。 ※最後の姿は、動画で紹介。
主体的に学習に取り組む態度をどのように評価しているのか。	1単位時間の授業で見取るのではなく、思考力・判断力・表現力等と抱き合わせで見取るようにしている。

■ 指導助言

上川教育局義務教育指導班 主任指導主事

菅野 裕介 様

・一番大切なのは、目標に対して児童の姿はどうであったかという点。児童が店側の視点で考えていたところから、達成されていたと言える。また、客のニーズを捉えさせて授業を進めていたこともよかった。

・6枚の写真を提示するだけでは深まりが不十分になる。それ以前の学習でしっかり問いをもたせると、本時のように写真を生かした授業ができる。

・資料提示でロイロノートを使用していたが、大切なのは可視化できるようにすることである。

・ランキングすることによって、関係付けや理由付けが行われ、思考が深まる。

・「No.1」という言葉が適切だったか。児童に戸惑いはなかったか。児童が、迷わず思考できるようにすることを重視する視点をもつことも大切である。

・児童が推測したことをどのように確かめるのか。学習活動を広げていく部分なので大切にしたい。

・不完全なニュースからの導入は、シンプルながら、児童の思考を揺さぶるよい手立てだと感じた。単元や題材のまとまりを通して、資質・能力を育成しようというのがよく分かる、考えられた単元構成だった。

・学びがつながっていくことを児童が意識するように授業を展開させることを大切にしたい。

・単元計画を見た印象では、1単位時間のつながりが分かりにくいところもあったので、つながりが明確になるよう意識して作成するとよい。

・6枚の写真から、店の外側の工夫にどう広げるか。児童の実態に応じながら授業を構想していくことが大事である。

・主体的に学習に取り組む態度の評価について、粘り強さ、学習調整している姿を見取る事ができるように指導し、指導したことを評価する。

・コロナ禍において、写真を使った学習活動は有効である。とはいえず、体験活動ができる方法をもっと考え、学習の幅を広げてほしい。

■ 指導助言

北海道教育大学旭川校 教授

坂井 誠亮 様

・社会科における問題解決的な学習過程とは、問題発見、解決への見直し、検証（個による追究→集団での追究）、単元の振り返り、という流れが基本になる。そのまとめ、振り返りの活動としてロイロノートを使ったCMづくりの活動があり、単元を通して児童の評価をする際の方法としてよい方法であると感じた。

・学習問題が児童のものになっていた。ある子が「どうやって願いを叶えているのか写真で考える。」と発言していたことから、問いをもち、見直しをもって学習を進めていたと言える。こうした発言が、児童の言葉として出てくることが大切。

・今回の単元で、教師の用意した写真を使わざるを得ないのは、コロナのことを考慮すると仕方がないだろう。

・「まとめ」は、学習問題や学習課題に沿って、内容を整理したもの。「振り返り」は、学習内容をそのままアウトプットするのではなく、学習者が個人の中で自己の経験や知識等と結び付けて形成され、アウトプットされたもの。

・本時で印象的だったのは、学習のまとめに「お客さんが喜ぶように、店の人が明るく」という発言をした児童がいたこと。この発言は、学習したことそのものではない。この学習を通して、この子の中で変化が起きている。この後の松田先生のやりとりの中で、周りの児童も、新たな考えの視点を手に入れているのが分かる発言が見られた。このように、児童とのやりとりの中で、次の課題意識をもたせているのが、松田先生の素晴らしいところ。

・主体的な学びの評価について、「問い続ける姿を見取る」としてのが重要。振り返りは自分の学びをメタ認知する場であることから、「今後の見直しを書いているか」「新たな疑問は生まれたか」「他者の意見で心が動いたか」「自分の生き方を重ねたか」「自分の足跡を振り返っているか」という視点で、児童の記述に当たるとよい。